

事務事業名 成東文化会館自主事業

政策:05 生涯を通じて人と人とがふれあい共に学びあえるまちづくり

施策:02 生涯学習の推進

部名:教育部

課名:文化会館

基本事業:04 芸術文化活動の充実

計画年度	年度 ~ 年度	事業区分	継続	会計区分	普通会計	
1 対象（誰、何に対して事業を行うのか）		2 手段（事務事業の内容、やり方、手順）				
市民		【内容】 以下のような枠組みで自主事業を展開。 ・鑑賞型事業 23本（ホールイベント：8本、映画：4本、サロンコンサート11本）・参加型事業 6本 【やり方・手順】 ・一般広告（新聞・雑誌など） 25件・チラシ・ポスター作成 27件 ・ダイレクトメール 2件・ホームページ掲載（1件）・市広報への掲載 12回 ・会場整理業務委託回数 24回 ・アンケートによる満足度の計測及び客層の傾向・趣向などの調査回数 23回				
3 意図（この事業によって対象をどのような状態にしたいのか）		自主事業に対する満足度が上昇し、来場者も増加する。				
4 活動指標・成果指標・事業費の推移						
区分	指標名称	単位	20年度実績	21年度実績	22年度当初	25年度目標値
活動指標	PR件数	件	34	67	70	-
活動指標	自主事業開催本数	本	36	41	40	-
成果指標	入場者数	人	6,363	8,578	7,050	-
成果指標	自主事業に対する満足度	%	88.2	89.8	89.5	-
事業費		千円	22,675	20,453	22,715	
		うち一般財源	千円	17,840	14,049	17,082
5 目的妥当性						
法定受託事業である（根拠法令） 妥当である 妥当性が低い		都市部に行かないと観覧、体験出来ない事業を展開しています。また、民間では採算性が低いため提供できない部分を、市が提供しています。				
6 上位の基本事業への貢献度						
貢献度大きい（理由） 貢献度ふつう（理由） 貢献度小さい（理由） 基礎的事務事業		地元にながらにして、市民の心を豊かにする機会の提供をしています。				
7 対象や意図の妥当性、費用対効果の検討						
対象や意図を見直し、費用対効果を上げることができる 対象や意図の見直しはできない その他		文化会館の地域における役割を市民とともに考えることにより、人的ネットワークを広げられる可能性があります。				
8 有効性（成果状況）						
あがっている どちらかといえばあがっている あがっていない		満足度については横ばいであるが、入場者数を見ると数値が上がっていることから、成果はどちらかといえばあがっていると言えます。また、入場者数についてはまだ空席も見受けられ、参加の形態についても拡大の余地があることから、成果向上余地は大と言えます。				
9 有効性（成果向上余地）						
成果向上余地・大 成果向上余地・中 成果向上余地・小・無し						
10 事業の再編成						
類似の事業があり、再編成できる 類似の事業はあるが、再編成できない 類似の事業はない		類似の施設として、さんぶの森文化ホールがありますが、ホールの形状、それぞれの館の入場者のニーズが異なるため、再編成は難しいと思われます。				
11 効率性（コスト削減の方法）						
ある ない		これ以上の入場料のアップは難しいが、入場者数の増加が出来れば費用対効果及び歳入の増加に繋がると考えられます。				